3 障がい者の社会参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別も排除する取組み

（１）社会参加への環境づくり

―基本的な考え方―

障害者権利条約では、「障害」は、主に、障害者の活動を制限し、社会への参加を制約している社会的障壁によって作られているというとらえ方をしています。そこで、社会的障壁の排除を進めるため、障害者に配慮したまちづくり、障害特性に応じた意思疎通支援、防災・防犯対策等の推進、行政機関等における配慮の充実等により、ハード、ソフト両面にわたるバリアフリー化に取り組みます。

１　取組実績

＜成果目標の達成状況＞

把握すべき状況①　グループホームの整備

成果目標	年度	目標値	実績値	達成率	主な取組による成果
県内のグループホームサービスの利用人数（再掲）（人） 43	H30		8,748		○グループホーム等の職員に対する研修の実施及びグループホームを対象とした実態調査を実施した。 ・実態調査（1回） ・グループホーム等職員研修（2回）
	R1	9,296	9,442	101.5%	
	R2	9,806	10,538	107.46%	
	R3	10,325	11,174	108.22%	
	R4	10,872	12,140	111.7%	
	R5	11,448	13,162	115.0%	

（成果目標の状況）

○　県内のグループホームサービスの利用人数は、最終目標11,448人に対し実績13,162人で、達成率は115.0%だった。

把握すべき状況②　主要道路の信号機の整備等

成果目標	年度	目標値	実績値	達成率	主な取組による成果
視覚障害者用付加装置等の整備状況（箇所） 44	H30		15		○バリアフリー法に基づき、市町村が定める重点整備地区内の主要な生活関連経路等において、高齢者、障害者等の道路横断時の安全確保に資するバリアフリー対応型信号機について、必要な整備を実施した。
	R1	1	16	1,600%	
	R2	1	20	2,000%	
	R3	1	21	2,100%	
	R4	1	10	1,000%	
	R5	1	10	1,000%	

（成果目標の状況）

○　視覚障害者用付加装置等の整備状況は、令和5年度の目標1か所以上に対し、実績は10箇所で、達成率は1,000%だった。

把握すべき状況③　ライトセンターにおける取組み

成果目標	年度	目標値	実績値	達成率
ライトセンターの蔵書数（点字図書、録音図書及び拡大図書）（冊）	H30		33,713	
	R1	34,521	34,482	99.8%
	R2	35,201	35,094	99.7%
	R3	35,741	35,665	99.7%
	R4	36,281	36,432	100.4%
45	R5	36,821	36,969	100.4%

主な取組による成果			
【製作】	点字	デイジー	拡大
タイトル	378	165	19
巻	1,382	330	74
【貸出】	点字	デイジー	テープ
タイトル	1,404	27,864	85
巻	4,947	28,522	629

（成果目標の状況）

○　ライトセンターの蔵書数（点字図書、録音図書及び拡大図書）が、最終の目標36,821冊に対し実績は36,969冊で、達成率は100.4%だった。

把握すべき状況④　手話の普及

成果目標	年度	目標値	実績値	達成率	主な取組による成果
手話講習会の実施事業所数の累計（事業所）	H30		133		○手話学習用冊子及び手話推進計画リーフレットを配布した。 ○事業者による手話講習会を実施した。【21社22回開催】 ○市町村と連携した県民向け手話講習会を開催した。【15回8市】
	R1	150	173	115.3%	
	R2	180	179	99.4%	
	R3	210	191	90.9%	
	R4	240	222	92.5%	
46	R5	270	244	90.4%	

（成果目標の状況）

○　手話講習会の実施事業所数の累計は、最終目標270事務所に対し実績は244事務所で、達成率は90.4%だった。

把握すべき状況⑤　ウェブアクセシビリティの向上

成果目標	年度	目標値	実績値	達成率	主な取組による成果
公的機関のウェブサイトの情報アクセシビリティに関するJIS規格への準拠率（%） 47	H30		93		○県公式ウェブサイト及び外部サイトのJIS規格に基づく試験及び全ページ一括検証を実施した。【2回】 ○動画配信による研修を実施した。 ○音声読上げソフトウエアを貸与した。
	R1	96	98.4	102.5%	
	R2	98	97.4	99.3%	
	R3	100	97.4	97.4%	
	R4	100	97.9	97.9%	
	R5	100	97.1	97.1%	

（成果目標の状況）

○　公的機関のウェブサイトの情報アクセシビリティに関するJIS規格への準拠率が、令和5年度の目標100%に対し実績は97.1%で、達成率は97.1%だった。

把握すべき状況⑥　消費者教育の推進

成果目標	年度	目標値	実績値	達成率	主な取組による成果
障害者及び障害者を見守る人向けの講座等の開催数（回・累計） 48	H30		4		○消費生活に関する情報や、悪質商法などの消費者被害に遭わないポイントを伝える講座に講師を派遣した。【派遣：25回、受講者：797人】
	R1	6	3	50.0%	
	R2	12	3	25.0%	
	R3	18	9	50.0%	
	R4	24	20	83.3%	
	R5	30	25	83.3%	

（成果目標の状況）

○　障害者及び障害者を見守る人向けの講座等の開催数は、最終目標30回に対し実績は25回で、達成率は83.3%だった。

把握すべき状況⑦　県における合理的配慮の徹底

成果目標	年度	目標値	実績値	達成率	主な取組による成果
県職員に対する研修の受講者数（人） 49	H30		1,379		○県職員を対象とした研修を実施した。 ・新採用職員研修【410名】 ・新任管理職研修【67名】 ・人権男女主任者研修【975名】
	R1	1,224	1,325	108.2%	
	R2	1,248	937	75.0%	
	R3	1,272	1,042	81.9%	
	R4	1,296	1,375	106.1%	
	R5	1,320	1,452	110.0%	

（成果目標の状況）

○　県職員に対する研修の受講者数が、最終目標1,320人に対し実績は1,452人で、達成率は110.0%だった。

※　計画策定時、目標値の設定にあたり参考とした実績値は平成29年度の1,200人であったが、令和元年度の実績が既に最終目標を超えている。

＜その他の取組による成果＞

安全・安心な生活環境の整備

○　外出する機会の少ない障害者に対して社会見学やレクリエーションを団体で行うための移動支援として、福祉バス（車いすリフト付きバス）を運行し、障害者間等の交流と社会参加推進を図った。【年間運行日数：196日、年間運行回数：189回】

○　外見から分かりにくい内部障害等、援助や配慮を必要としている方が援助を得やすくなるよう、ヘルプマーク及び啓発ポスター等を作成し、普及啓発を実施した。【ヘルプマーク配布数：15,000個】

情報アクセシビリティの向上及び意思疎通支援の充実

○　令和3年7月から法令に基づくサービスとしての提供が開始されたことから、県のホームページによる周知の他、県のたよりによる周知や、各種関係機関・団体等への周知など、広く電話リレーサービスの周知を行った。

○　盲ろう者通訳・介助員を派遣し、盲ろう者の自立した日常生活又は社会生活を支援した。【派遣件数：2,599件】

○　盲ろう者通訳・介助員を養成し、支援の充実を図った。【盲ろう者通訳・介助員養成研修の実施：修了者26人、盲ろう者通訳・介助員新規登録：21人】

暮らしの安全と安心

○　大規模災害時に備え、福祉関係団体等と連携し、神奈川県災害派遣福祉チーム（神奈川DWAT）の設置や事務局体制の整備を行うとともに、訓練、研修等を通じて災害時要配慮者に対する必要な福祉支援体制を確保した結果、能登半島地震において初めて派遣活動を行った。これまでの研修及び訓練内容を踏まえつつ、現地での他チームと連携した活動ができた。【連絡会開催：3回、研修開催：4回延べ335人、訓練の実施：4回、能登半島地震派遣：23名（県社協、県職員各1名含む）】

○　言語・聴覚に障害のある方が事件や事故等を目撃したり被害に遭った場合に、スマートフォンなどから事案内容を通報できるよう、通信指令室に「110番アプリシステム」を開設し、急訴事案に対応した。【受理366件（うち障害者86件）】

行政等における配慮の充実

○　ろう者とろう者以外の者のコミュニケーション支援の充実を図るため、県の出先機関等に二次元バーコードを配布し、タブレット型端末等によるテレビ電話機能を活用した手話通訳サービスを提供した。

また、新型コロナウイルス感染症に感染または、感染の疑いのあるろう者が医療機関等を受診等する際に、二次元バーコードを活用し、タブレット型端末等によるテレビ電話機能を活用した手話通訳サービスを提供した。

2　一次評価

＜点検・評価の結果＞

概ね順調に推移している

（評価の理由）

○　成果目標については、7項目中4項目で、令和5年度の目標を達成し、達成率が90％以上は7項目中6項目だった。

○　本分野では、障害者に配慮したまちづくり、障害特性に応じた意思疎通支援、防災・防犯対策等の推進、行政機関等における配慮の充実等に取り組むこととしている。

○　障害者に配慮したまちづくりについては、関連する成果目標である「県内のグループホームサービスの利用人数」と「視覚障害者用付加装置等の整備状況」の2項目とも令和5年度の目標を達成している。

○　障害特性に応じた意思疎通支援については、関連する成果目標である「ライトセンターの蔵書数」は令和5年度の目標を達成し、「手話講習会の実施事業所数」の達成率は90.4%となっている。

○　防災・防犯対策等の推進については、関連する成果目標である「障害者及び障害者を見守る人向けの講座等の開催数」が累計値での新型コロナウイルスの影響を受けて講座等を開催できなかった年度もあることから達成率は83.3%となっている。

○　行政機関等における配慮の充実については、関連する成果目標である「県職員に対する研修の受講者数」は令和5年度の目標を達成した。また、「公的機関のウェブサイトの情報アクセシビリティに関するJIS規格への準拠率」の達成率は97.1%となっている。

○　これらを総合的に判断し、令和5年度については「概ね順調に推移している」と評価した。

＜今後の課題と対応＞

安全・安心な生活環境の整備

○　障害者等の住宅確保要配慮者の居住支援にあっては、不動産店や居住支援団体等との連携や、住宅確保要配慮者と接している市町村職員による支援が不可欠であるため、継続して「住まいに関する横断的な知識」の習得の場を設け、居住支援活動をとりまく周辺環境整備を図る必要がある。

○　精神障害者の社会参加促進のため、バス運賃割引の導入について県バス協会へ要請しているが、実現に至っていない。引き続き要請を行うとともに、国に対しても、関係機関に働きかけるよう要望していく。

情報アクセシビリティの向上及び意思疎通支援の充実

○　盲ろう者の自立と社会参加を促進するため、コミュニケーション支援及び移動時等の介助を行う盲ろう者向け通訳・介助員を養成し、派遣しているが、利用登録者が増えていないため、市町村等を通して周知をしていく。また、新たに通訳・介助員となった者のスキルアップが必要であるため、現任研修の充実、新人通訳・介助員のフォローをしていく。

暮らしの安全と安心

○　市町村における、災害時における要配慮者支援マニュアル作成率を上げていく必要があり、令和4年度に改訂した「災害時における要配慮者支援マニュアル作成指針」の活用について市町村に引き続き周知するとともに、課題について共有し、一層の支援を図っていく。

3　最終評価

＜最終評価＞

概ね順調に推移している

（評価の理由）

○　成果目標については、7項目中4項目で、令和5年度の目標を達成し、達成率が90％以上は7項目中6項目だった。

○　本分野では、障害者に配慮したまちづくり、障害特性に応じた意思疎通支援、防災・防犯対策等の推進、行政機関等における配慮の充実等に取り組むこととしている。

○　障害者に配慮したまちづくりについては、関連する成果目標である「県内のグループホームサービスの利用人数」と「視覚障害者用付加装置等の整備状況」の2項目とも令和5年度の目標を達成している。

○　障害特性に応じた意思疎通支援については、関連する成果目標である「ライトセンターの蔵書数」は令和5年度の目標を達成し、「手話講習会の実施事業所数」の達成率は90.4%となっている。

○　防災・防犯対策等の推進については、関連する成果目標である「障害者及び障害者を見守る人向けの講座等の開催数」が累計値での新型コロナウイルスの影響を受けて講座等を開催できなかった年度もあることから達成率は83.3%となっている。

○　行政機関等における配慮の充実については、関連する成果目標である「県職員に対する研修の受講者数」は令和5年度の目標を達成した。また、「公的機関のウェブサイトの情報アクセシビリティに関するJIS規格への準拠率」の達成率は97.1%となっている。

○　これらを総合的に判断し、令和5年度については「概ね順調に推移している」と評価した。